

R7.8.1	令和7年度	資料6
佐世保市歯・口腔の健康づくり推進協議会		

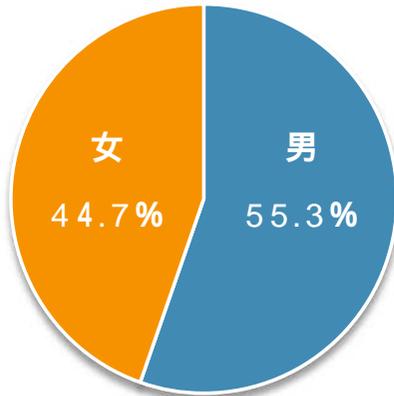
若年者歯科健診 (長崎県立大学)

令和7年4月2日(火)、3日(水)実施
場所:長崎県立大学 佐世保校 体育館

歯科健診結果について

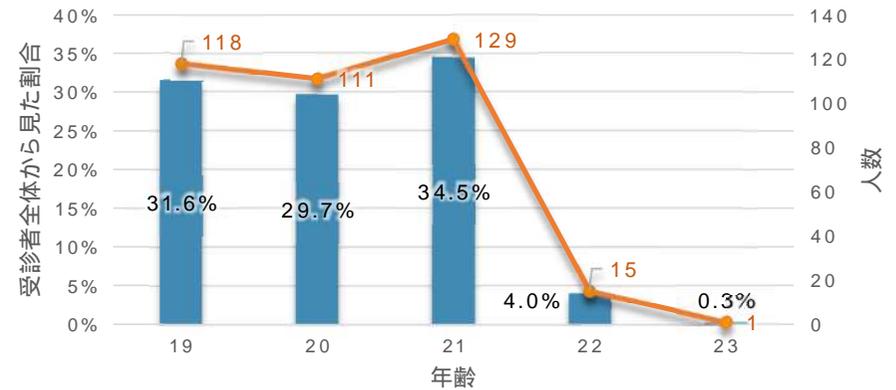
健診受診者数(全体)と歯科受診状況

R7若年者歯科健診受診者数(長崎県立大学)



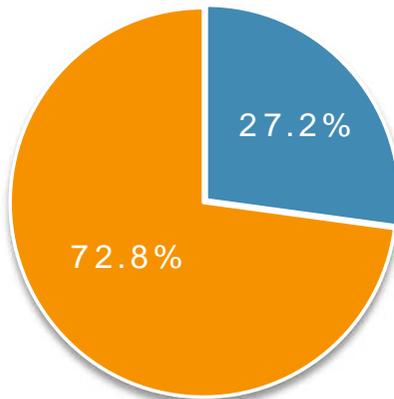
男性:207名
女性:167名
合計:374名

R7若年者歯科健診受診者 年齢別



R7若年者歯科健診(全体)の過去1年間の歯科受診状況

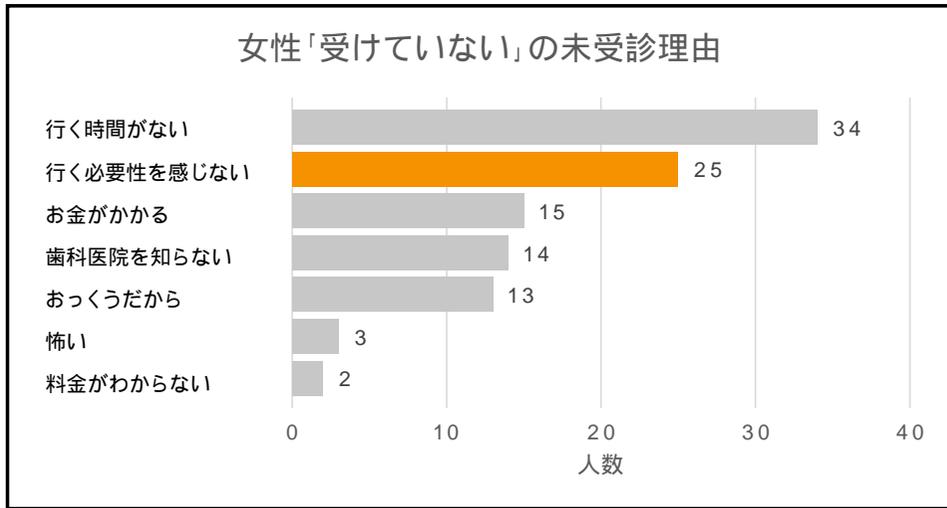
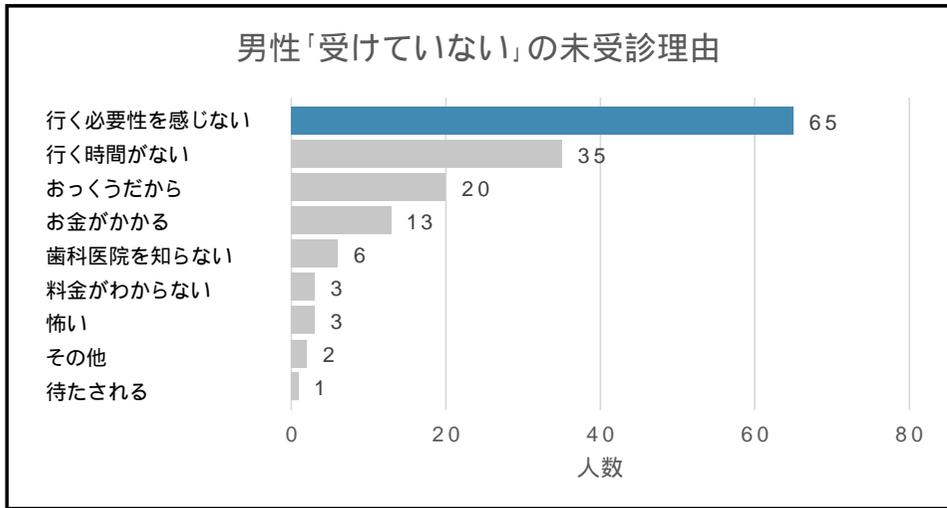
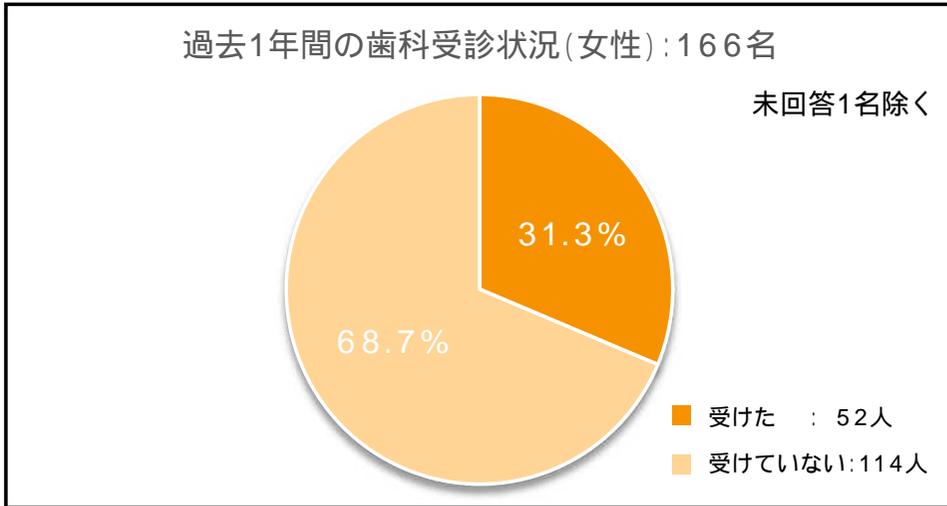
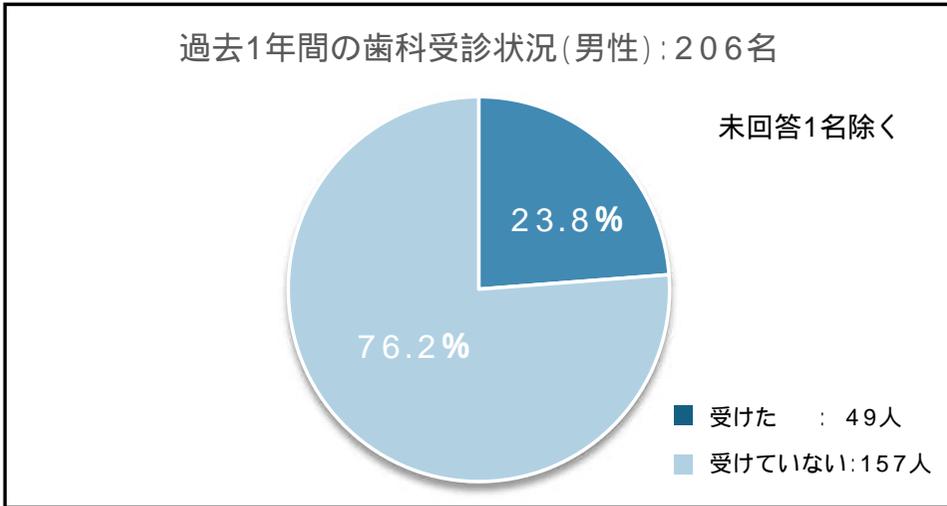
未回答2名除く



■ 受けた :101名
■ 受けていない:271名

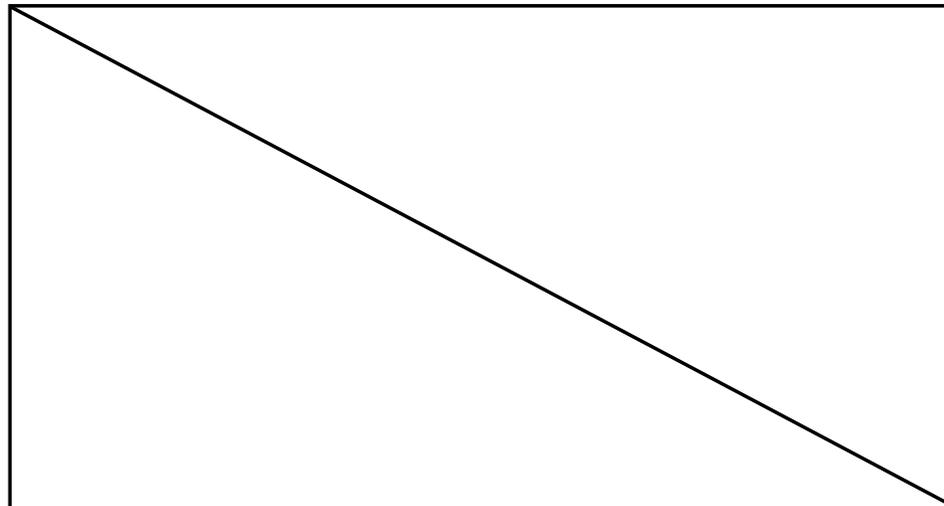
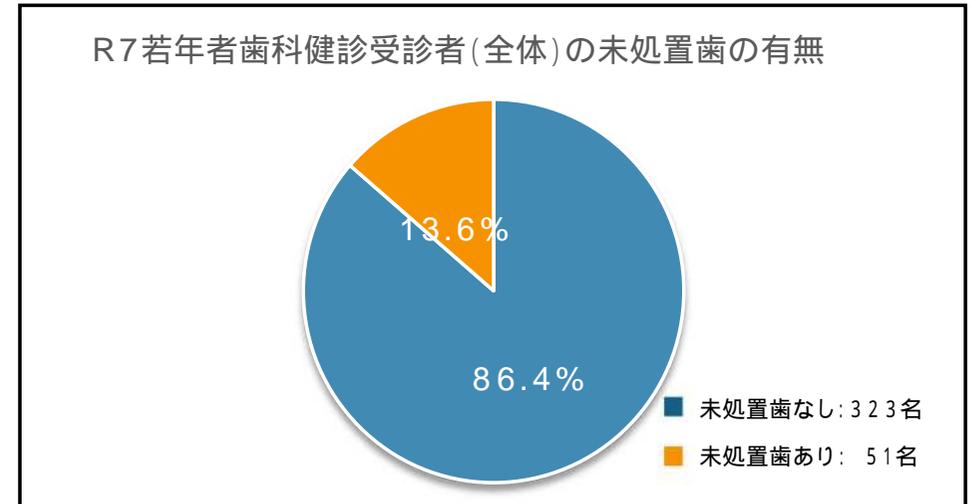
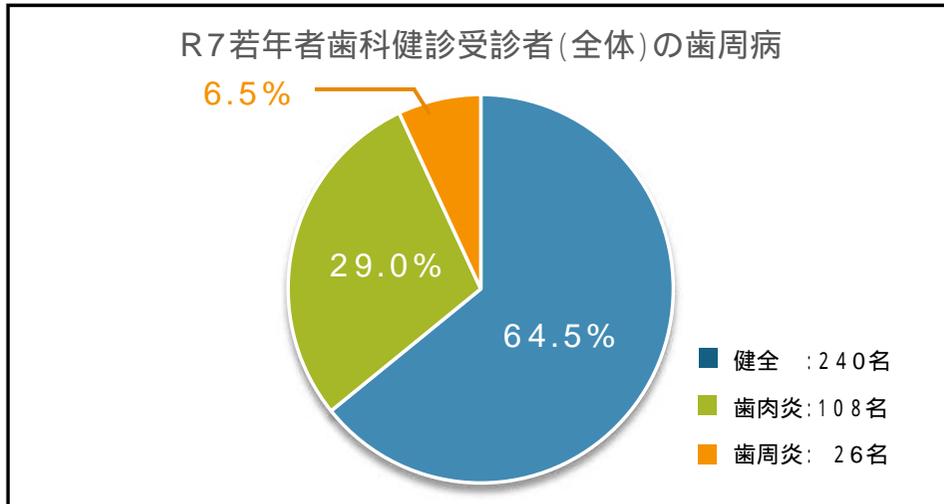
- ・R7年度若年者歯科健診の受診者は、男性207名(55.3%)、女性167名(44.7%)の計374名であった。
- ・受診者年齢は、19歳が118名(31.6%)、20歳が111名(29.7%)、21歳が129名(34.5%)、22歳が15名(4.0%)、23歳が1名(0.3%)であり、19~21歳が90%以上を占めた。
- ・過去1年間の歯科受診状況は、受けた人が101名(27.2%)、受けていない人が271名(72.8%)であった。

歯科健診結果について 過去1年間の歯科受診状況(男女別)と理由



歯科健診結果について

健診受診者(全体)と歯科疾患

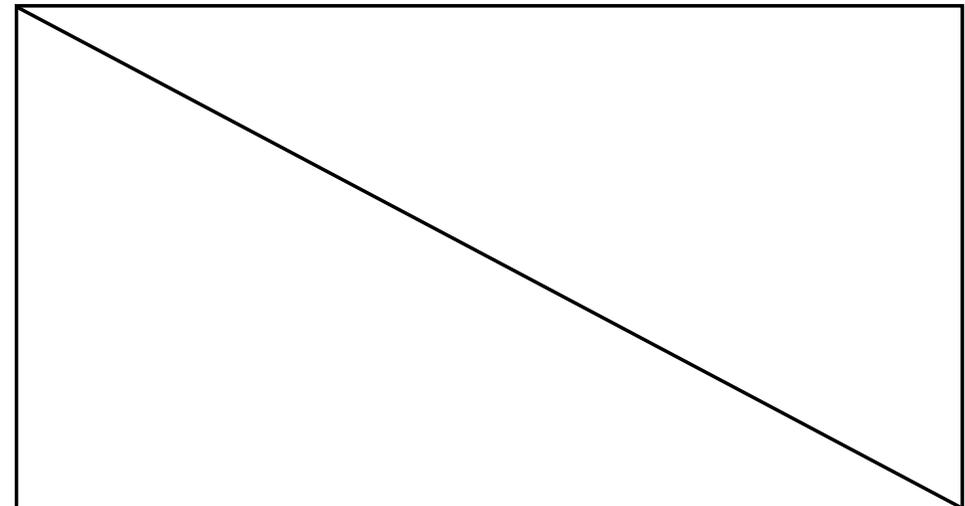
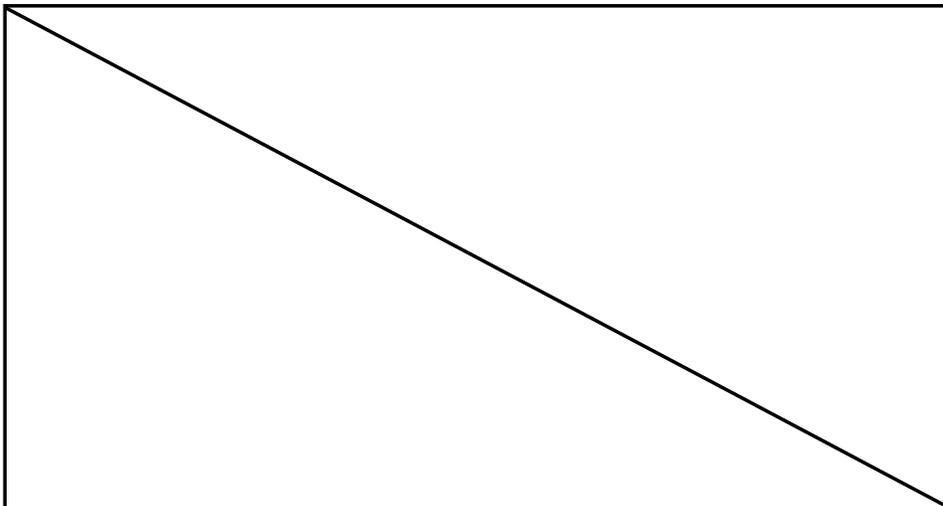
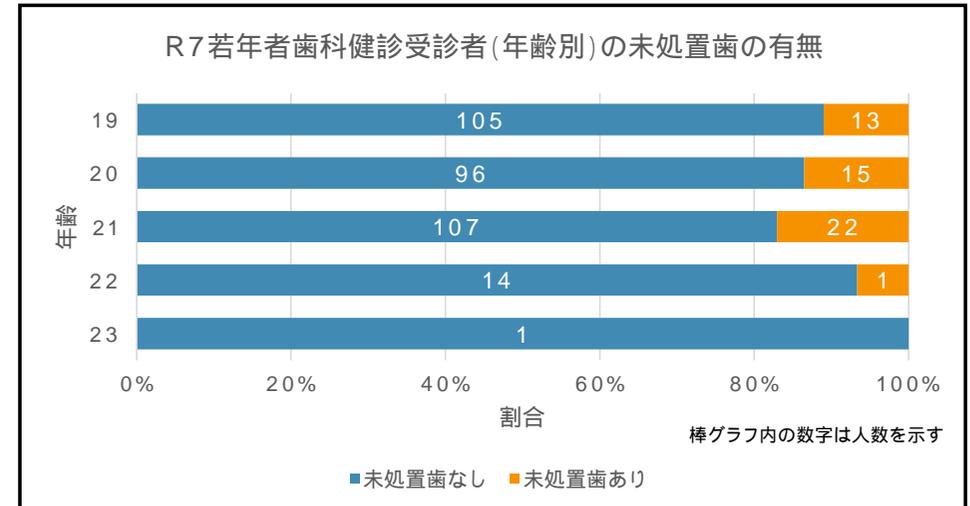
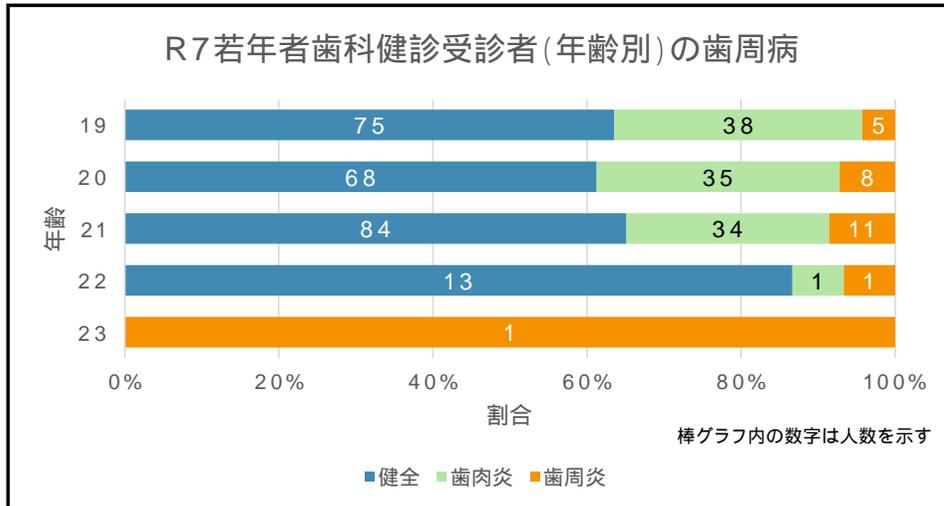


・R7年度若年者歯科健診受診者(全体)のうち、歯周病(歯肉炎・歯周炎)の罹患者は、歯肉炎は108名(29.0%)、歯周炎は26名(6.5%)であった。

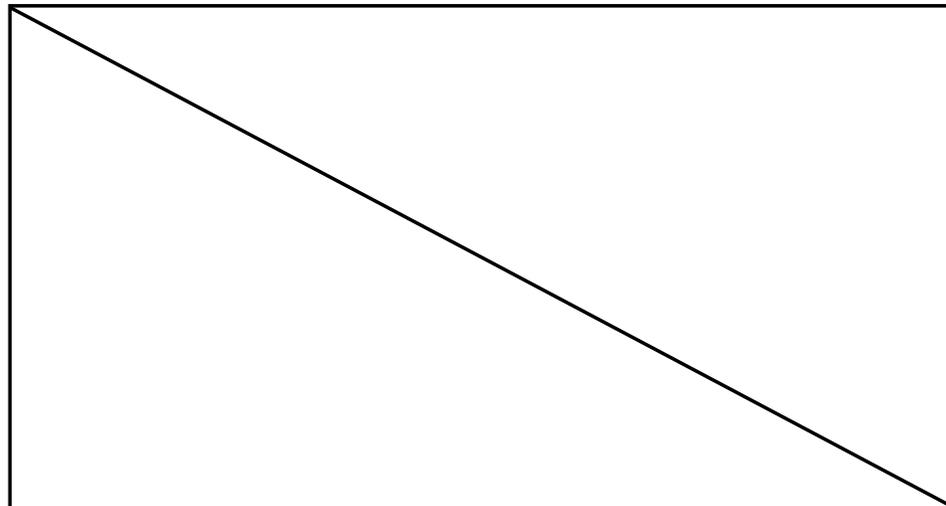
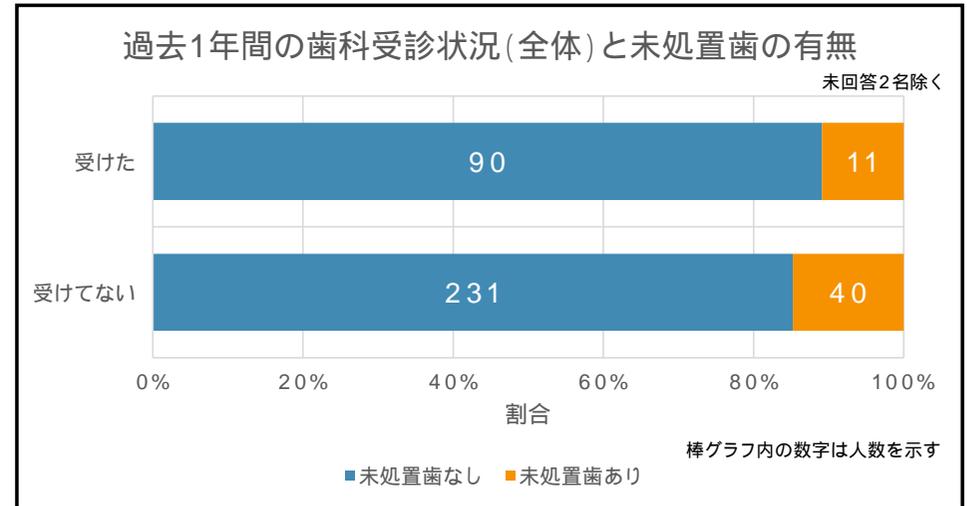
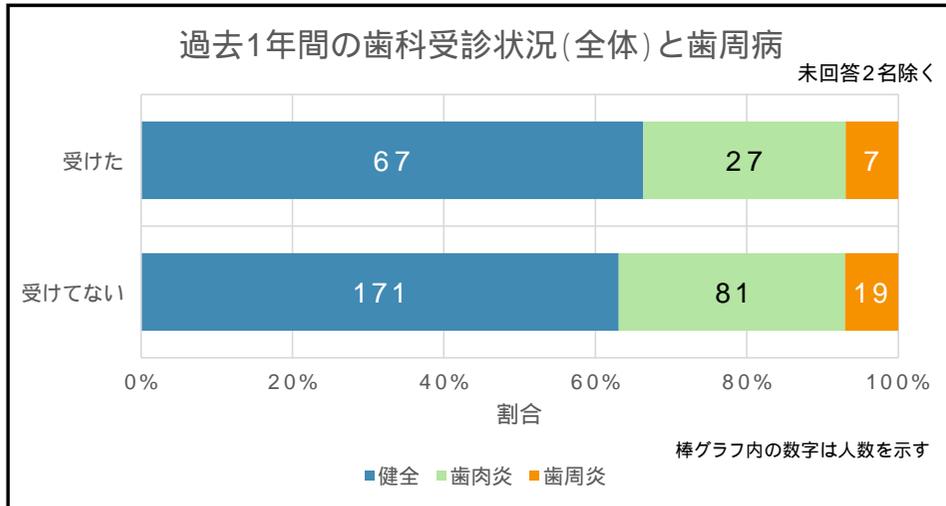
・R7年度若年者歯科健診受診者(全体)のうち、未処置歯を有する者は51名(13.6%)であった。

歯科健診結果について

健診受診者(年齢別)と歯科疾患

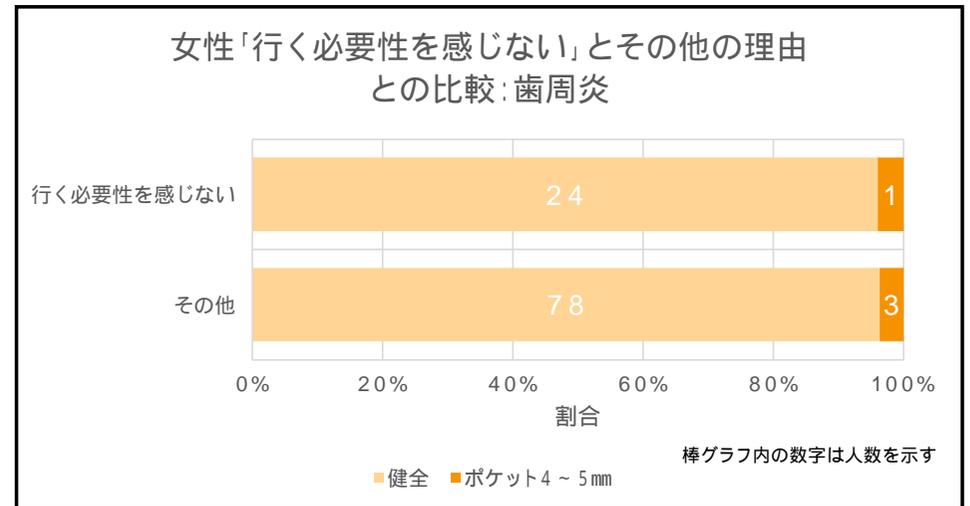
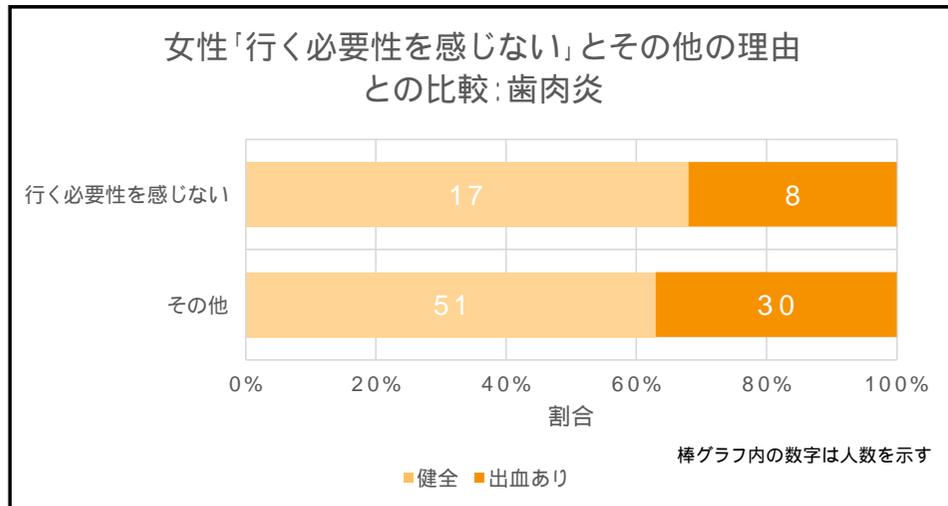
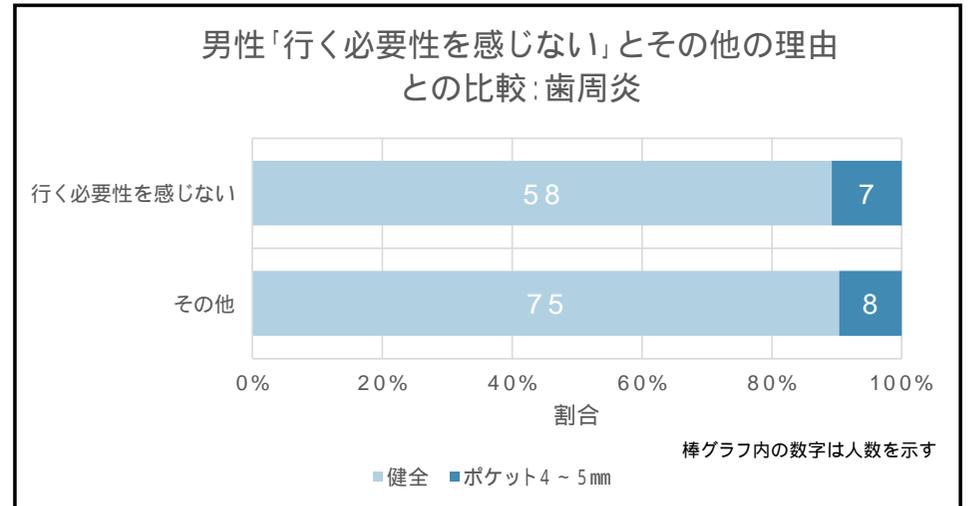
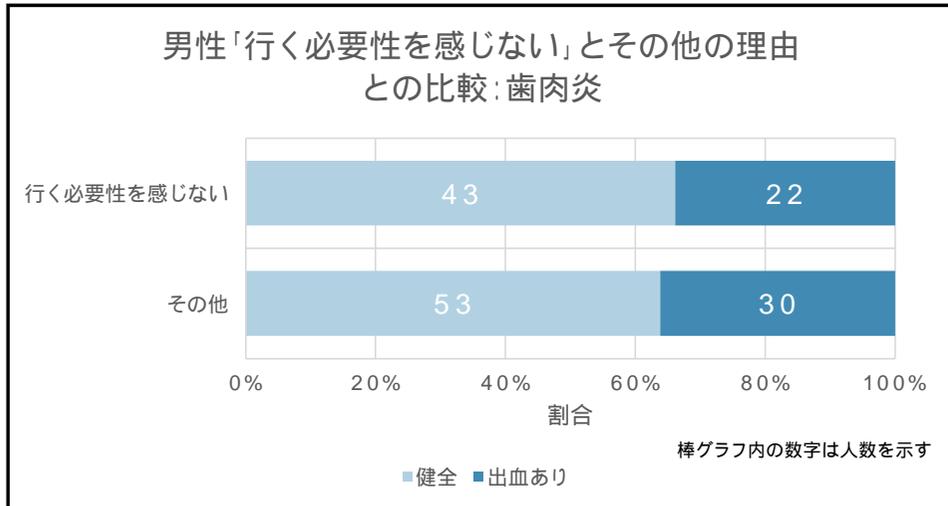


歯科健診結果について 過去1年間の歯科受診状況(全体)と歯科疾患

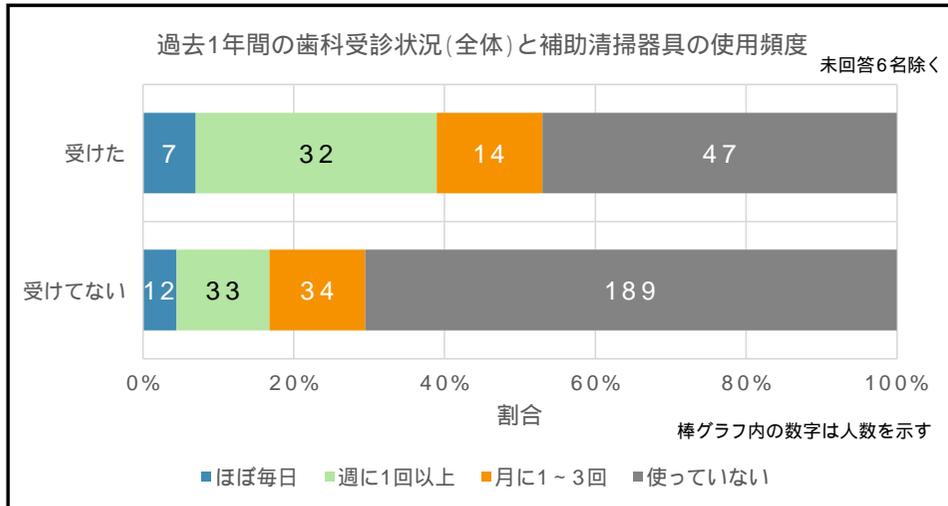


- ・過去1年間の歯科受診状況(全体)と歯周病(歯肉炎・歯周炎)の罹患者及び未処置歯の有無を比較した。
- ・歯肉炎:受けた人が26.7%、受けていない人が29.9%であり、受けていない人の割合が若干高かった。
- ・歯周炎:受けた人が6.9%、受けていない人が7.0%と大きな差はみられなかった。
- ・未処置歯:受けた人が10.9%、受けていない人が14.8%であり、受けていない人の割合が若干高かった。

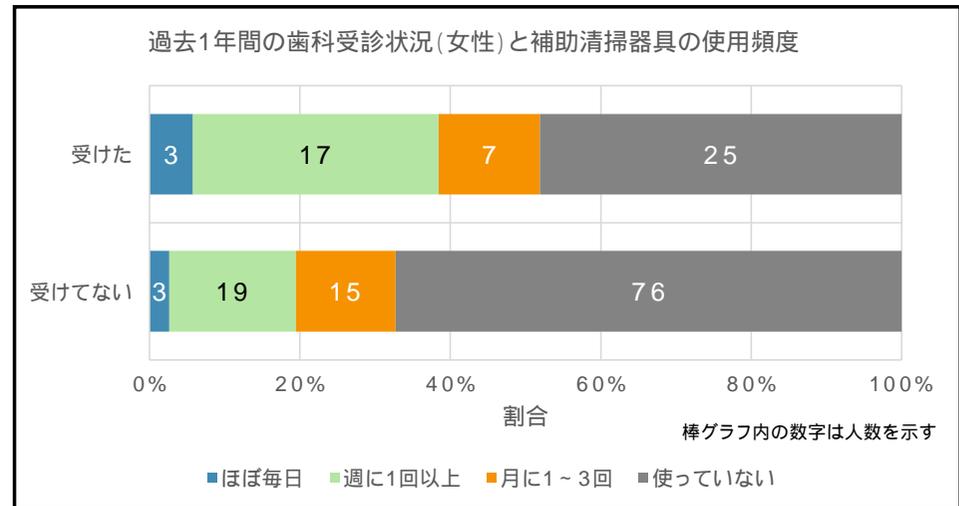
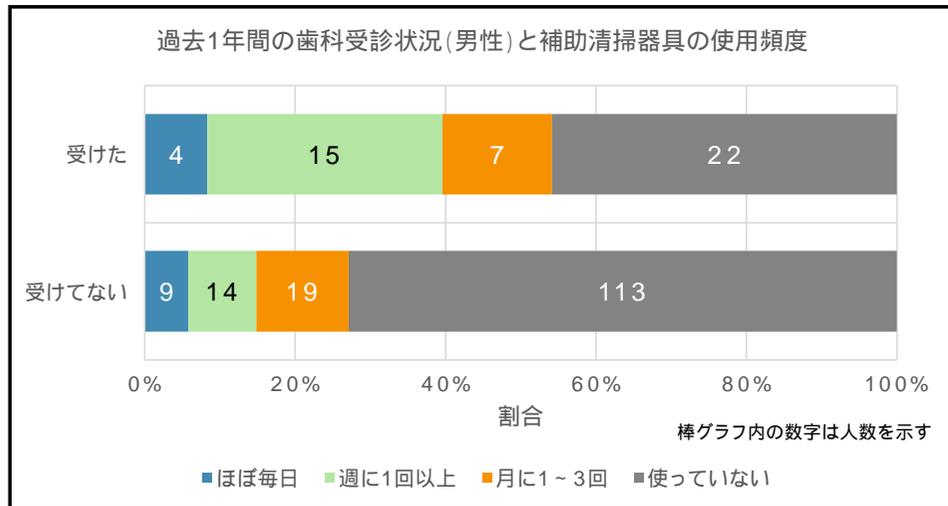
歯科健診結果について 「行く必要性を感じない」(男女別)と歯科疾患



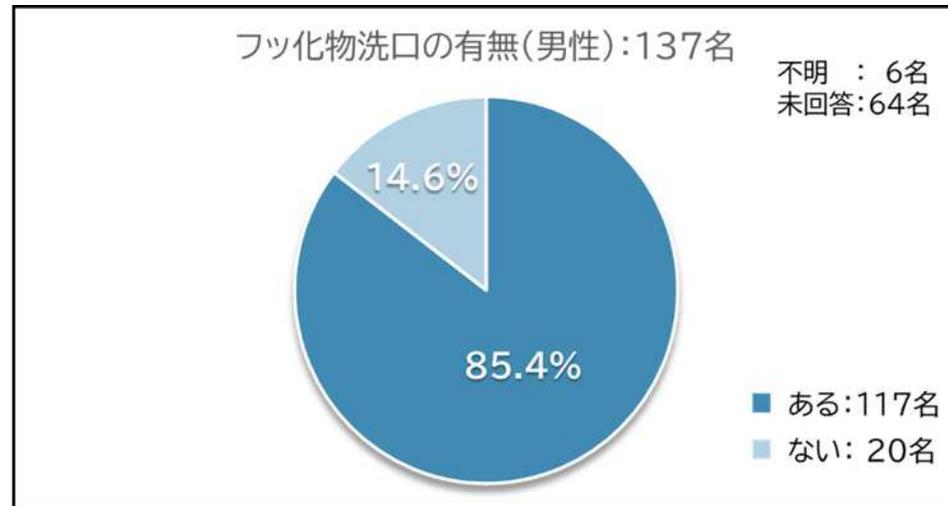
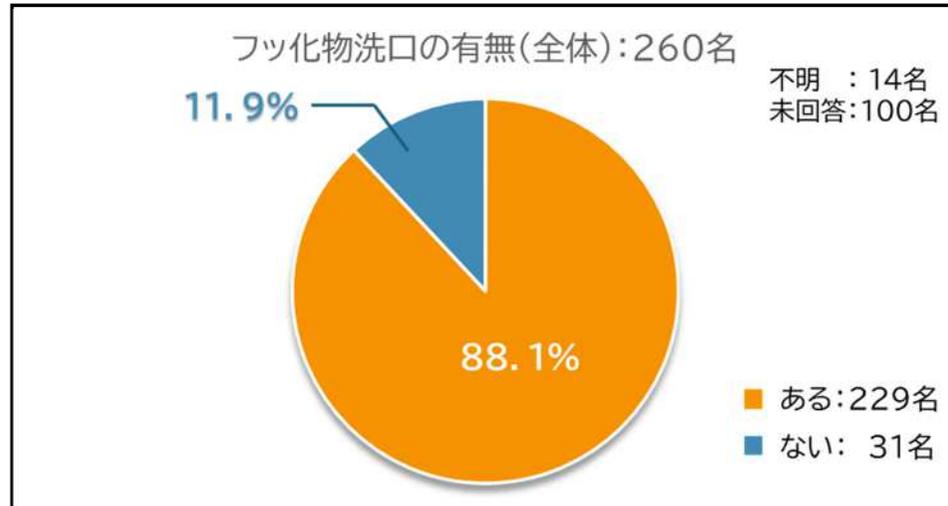
歯科健診結果について 過去1年間の歯科受診状況と補助清掃器具



- 全体、男性、女性すべてで、歯科受診していない人の方が補助清掃器具の使用頻度が低かった。その中でも補助清掃器具を使っていない人の割合が全体で70.5%、男性が72.9%、67.3%であった。
- 歯科受診に対し「行く必要性を感じない」という人とその他の理由の人の歯周病罹患をみたところ、
 歯肉炎(男性):「行く必要性を感じない」が33.8%、その他が36.1%、
 歯肉炎(女性):「行く必要性を感じない」が32.0%、その他が37.0%、
 歯周炎(男性):「行く必要性を感じない」が10.8%、その他が9.6%、
 歯周病(女性):「行く必要性を感じない」が4.0%、その他が3.7%であった。
- 歯周病の罹患に関して、若年者では定期的な歯科受診や補助清掃器具の使用頻度が低くてもリスクは少ないが、この状態が続くと歯周病に罹患するリスクが高くなるため、若い頃から意識していくことが重要だと考えられる。

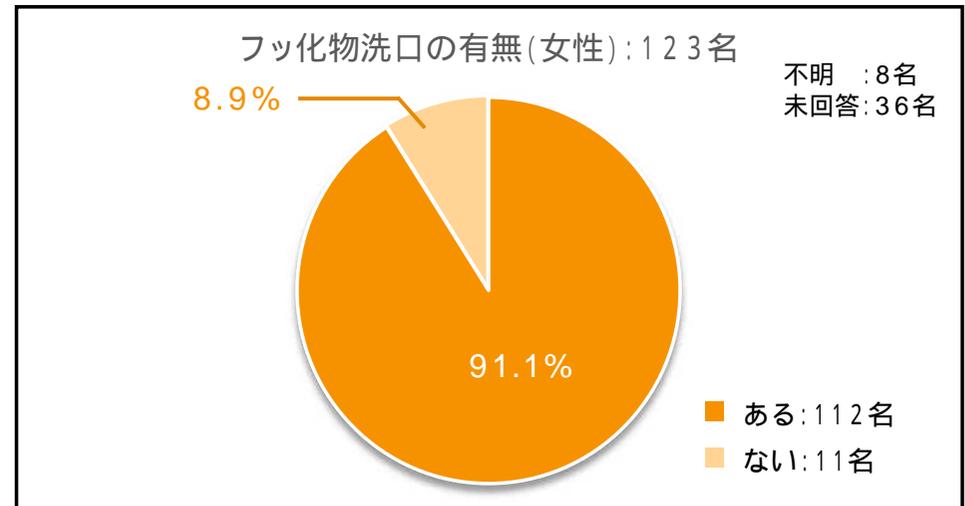


歯科健診結果について



フッ化物洗口の有無

・フッ化物洗口経験のある割合は、全体が88.1%、男性が85.4%、女性が91.1%であり、高い割合を示した。



歯科健診結果について

R7年度若年者歯科健診 19～23歳 (全体)

	DMF歯率	DMFT指数
全体 (n=260)	5.51%	1.59
フッ化物洗口あり (n=229)	5.17%	1.49
保育園・幼稚園から	5.26%	1.53
小学校から	5.12%	1.47
中学校から	5.50%	1.57
フッ化物洗口なし (n=31)	7.75%	2.26

R7年度若年者歯科健診 19～23歳 (男性)

	DMF歯率	DMFT指数
男性 (n=137)	5.56%	1.61
フッ化物洗口あり (n=117)	4.90%	1.42
保育園・幼稚園から	3.73%	1.09
小学校から	5.20%	1.51
中学校から	4.93%	1.40
フッ化物洗口なし (n=20)	8.99%	2.50

フッ化物洗口とDMF

・フッ化物洗口とDMF歯(=齲蝕)を比較したところ、

フッ化物洗口あり(全体): DMF歯率が5.17%、DMFT指数が1.49、
フッ化物洗口なし(全体): DMF歯率が7.75%、DMFT指数が2.26、

フッ化物洗口あり(男性): DMF歯率が4.90%、DMFT指数が1.42、
フッ化物洗口なし(男性): DMF歯率が8.99%、DMFT指数が2.50、

フッ化物洗口あり(女性): DMF歯率が5.46%、DMFT指数が1.56、
フッ化物洗口なし(女性): DMF歯率が6.27%、DMFT指数が1.80

であり、フッ化物洗口により齲蝕罹患を抑えられていることが分かった。

R7年度若年者歯科健診 19～23歳 (女性)

	DMF歯率	DMFT指数
女性 (n=123)	5.45%	1.56
フッ化物洗口あり (n=112)	5.46%	1.56
保育園・幼稚園から	6.62%	1.92
小学校から	5.02%	1.43
中学校から	5.81%	1.67
フッ化物洗口なし (n=11)	6.27%	1.80

歯科健診結果について DMFの比較

R7若年者歯科健診 19～23歳

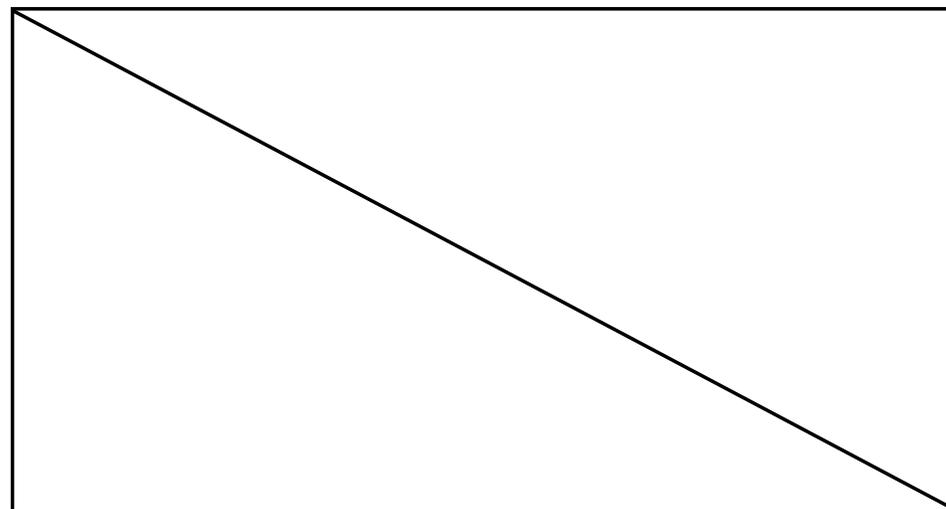
	DMF歯率	DMFT指数
全体(n=374)	5.51%	1.59
19歳(n=118)	4.45%	1.27
20歳(n=111)	5.07%	1.47
21歳(n=129)	6.66%	1.94
22歳(n=15)	6.70%	1.93
23歳(n=1)	10.71%	3.00

R4歯科疾患実態調査 19～23歳

令和4年度歯科疾患実態調査より

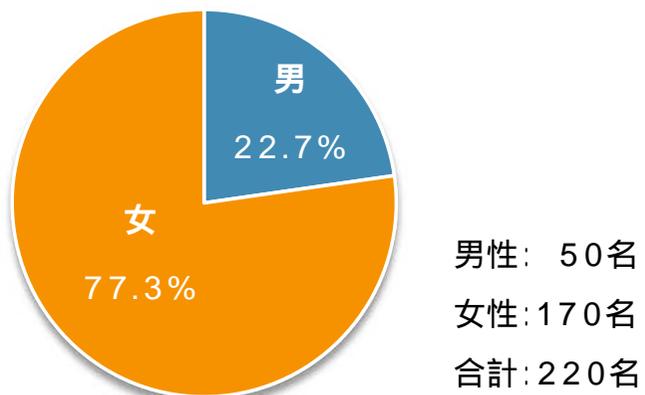
	DMF歯率	DMFT指数
全体(n=55)	11.71%	3.36
19歳(n=9)	6.18%	1.78
20歳(n=11)	15.16%	4.27
21歳(n=11)	17.46%	5.00
22歳(n=18)	6.65%	1.94
23歳(n=6)	18.82%	5.33

- ・R7年度若年者歯科健診とR4年度歯科疾患実態調査(19～23歳)のDMF歯率、DMFT指数を比較したところ、全体及び年齢別でR7若年者歯科健診の方が値が低かった。
- ・R4年度歯科疾患実態調査の19～23歳は被調査者数が少なく、その中でDMF歯の値が大きい人がいるため、結果としてDMF歯率、DMFT指数の値が大きくなった、と考えられる。
- ・今回の対象者はフッ化物洗口の経験がある人が全体で80%以上であり、また県立大学生であるため、一般集団よりも口腔内の状態が良好であることが考えられる。



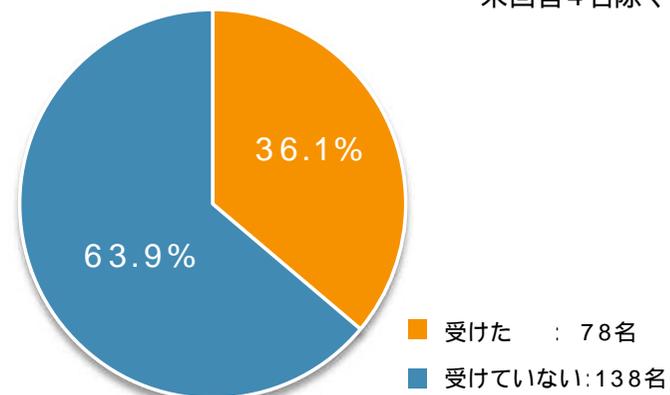
歯科健診結果について R6年度との比較

R6若年者歯科健診受診者数(長崎短期大学)

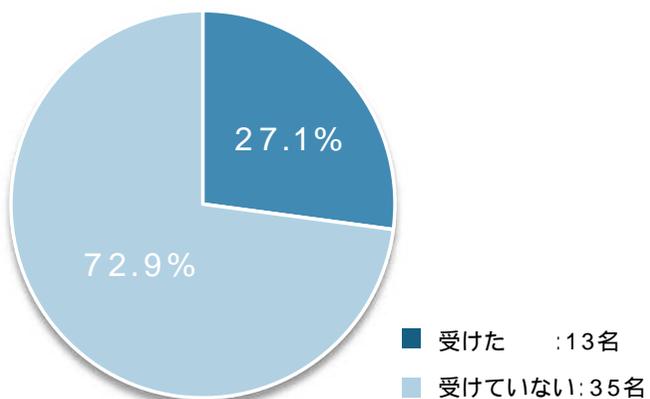


過去1年間の歯科受診状況

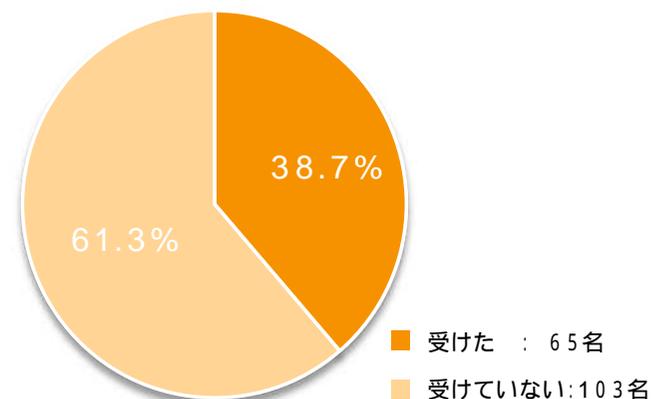
未回答4名除く



過去1年間の歯科受診状況(男性): 48名

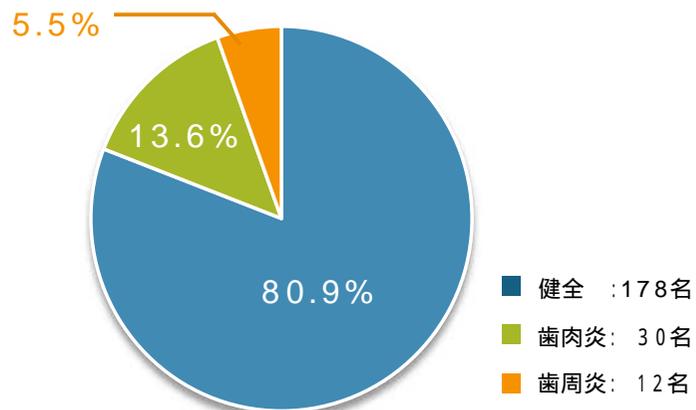


過去1年間の歯科受診状況(女性): 168名

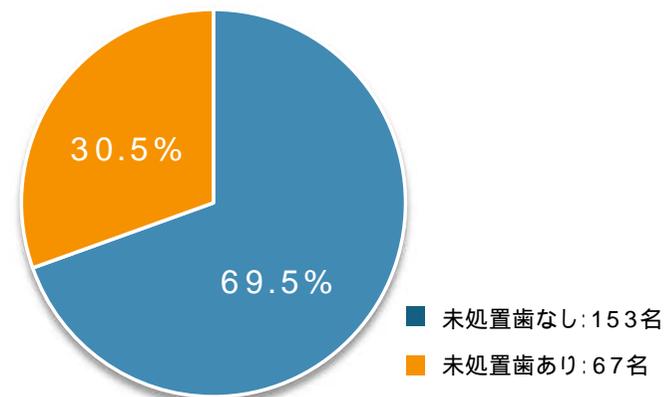


歯科健診結果について R6年度との比較

R6若年者歯科健診受診者(全体)の歯周病

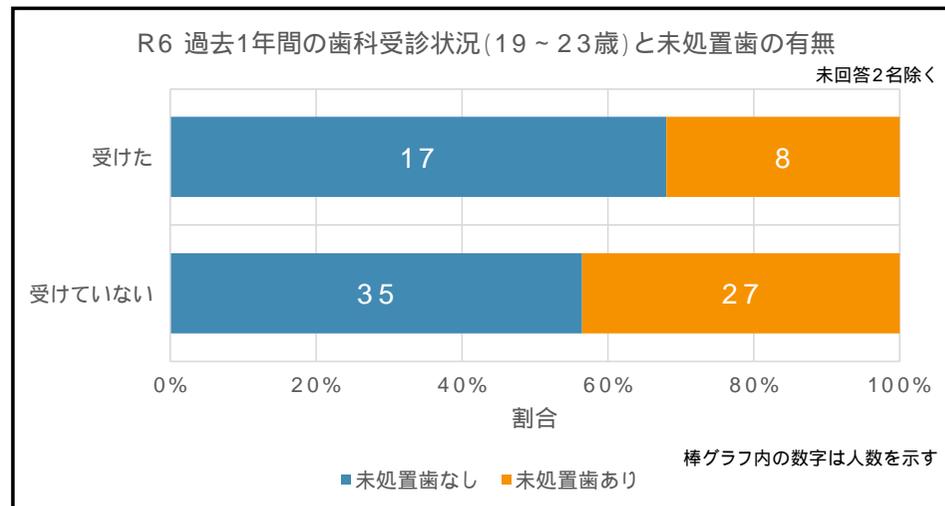
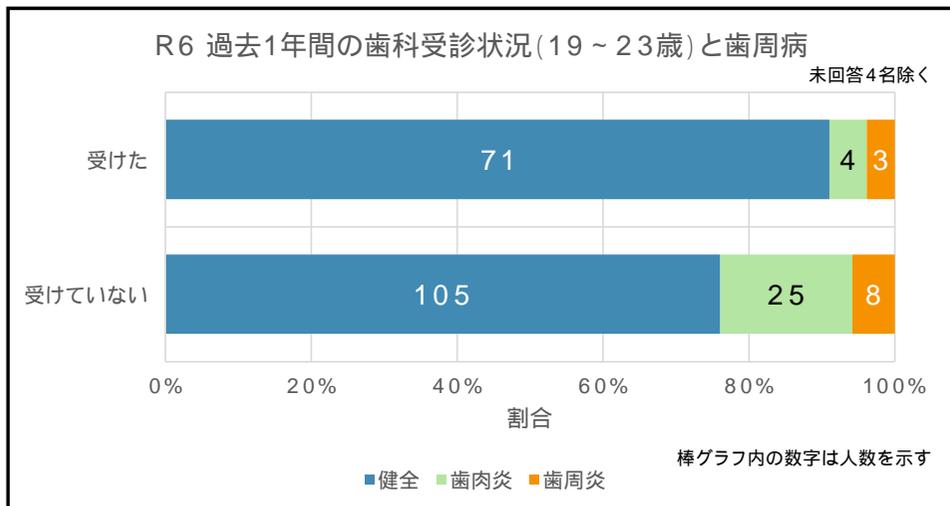


R6若年者歯科健診受診者(全体)の未処置歯の有無



- ・昨年度実施されたR6年度若年者歯科健診の受診者は、男性50名(22.7%)、女性170名(77.3%)の計220名であった。
- ・長崎県立大学の男女比が約半々であることに対し、長崎短期大学は女性の学生数の方が多い。
- ・R6年度の対象者は年齢の幅が広く、また外国人留学生も多いことから、R7年度と比べて未処置歯を有する割合が多かったと考えられる。
- ・R6年度における過去1年間の歯科受診した人数の割合は、全体:36.1%、男性:27.1%、女性:38.7%であり、R7の方が低い値、つまり歯科を受診していないという結果になった。(R6年度のデータ:スライド14)

歯科健診結果について R6年度との比較



・過去1年間の歯科受診状況(19~23歳)と歯周病(歯肉炎・歯周炎)の罹患者及び未処置歯の有無は、

歯肉炎:受けた人が5.1%、受けていない人が18.1%

歯周炎:受けた人が3.8%、受けていない人が5.8%

未処置歯を有する者:受けた人が32.0%、受けていない人が43.5%

であった。

結果のまとめ

過去1年間のうちに歯科受診をした者の方が、歯肉炎に罹患している割合が低かった。
またう蝕に関しては、歯科受診をした者の方が、罹患している割合が低かった。
全体として女性の方が、歯科受診をしている者の割合が高かった。

過去1年間のうちに歯科受診をした者の方が、補助清掃器具の使用頻度が高かった。

過去にフッ素洗口を行っていた者の方が、DMFT指数が低い値だった。